



2023年7月18日

各位

会社名 株式会社くろがね工作所  
 代表者名 代表取締役社長 神足 尚孝  
 (コード: 7997、東証スタンダード)  
 問合せ先 取締役経営管理本部長 森 吉武  
 (TEL. 06-6538-1010)

2023年11月期第2四半期業績予想と実績の差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

2023年3月30日に公表しました2023年11月期第2期四半期決算(2022年12月1日~2023年5月31日)の業績予想と、本日公表の同実績に下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。また、2023年11月期通期(2022年12月1日~2023年11月31日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

1. 業績予想の修正について

(1) 2023年11月期第2四半期累計期間の業績予想数値の修正(2022年12月1日~2023年5月31日)

(連結業績)

単位: 百万円

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	3,800	△70	△90	110	64円57銭
実績値(B)	3,808	28	△2	340	199円80銭
増減額(B-A)	8	98	87	230	
増減率(%)	0.2	-	-	209.4	
(参考)前期第2四半期実績 (2022年11月期第2四半期)	3,448	△130	△155	△188	△110円51銭

(個別業績)

単位: 百万円

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	3,780	△100	100	58円70銭
実績値(B)	3,794	△2	342	201円12銭
増減額(B-A)	14	97	242	
増減率(%)	0.4	-	242.6	
(参考)前期第2四半期実績 (2022年11月期第2四半期)	3,425	△158	△169	△99円36銭

(2) 2023年11月期通期業績予想数値の修正(2022年12月1日~2023年11月30日)

(連結業績)

単位: 百万円

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	7,770	△80	△90	1,215	713円25銭
今回修正予想(B)	7,440	△80	△90	1,120	657円48銭
増減額(B-A)	△330	0	0	△95	
増減率(%)	△4.2	-	-	△7.8	
(参考)前期実績 (2022年11月期)	6,920	△260	△265	△566	△332円28銭

(個別業績)

単位：百万円

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	7,730	△110	1,195	701円51銭
今回修正予想 (B)	7,400	△110	1,100	645円74銭
増減額 (B-A)	△330	0	△95	
増減率 (%)	△4.3	—	△7.9	
(参考)前期実績 (2022年11月期)	6,880	△270	△564	△331円67銭

## (2) 差異及び修正の理由

2023年11月期第2期四半期決算の連結業績につきましては、売上高はほぼ計画通りの結果となりました。前連結会計年度以前の受注案件に於ける原材料価格やエネルギーコストの高騰、急激な円安による輸入製品価格の上昇に伴うコストアップ分の販売価格への転嫁が進まず、売上総利益率の改善には依然として課題が残りましたが、定価の改定等による粗利率の向上を図り、売上総利益額についてもほぼ計画通りで推移をいたしました。販売費及び一般管理費は、不採算事業の縮小を含めた人件費の削減及び効率的な物流体制を推進するとともに、その他固定費の削減にも継続的に取り組んだ結果、計画比で10%減少したことにより、営業利益は28百万円となり前回公表予想より98百万円の増益となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、営業利益の計上と併せ、2023年5月19日に公表しました「投資有価証券売却益（特別利益）の計上見込みに関するお知らせ」でお知らせしました当社保有株式の売却による投資有価証券売却益95百万円を計上したほか、法人税等調整額(益)44百万の計上等があり増加いたしました。

尚、2023年11月期決算の連結業績につきましては、首都圏における受注、引き合い案件の納入時期が今期から来期へずれこむことにより、当連結会計年度中に売り上がる案件が減少する見込みのため、売上高が当初予想を下回る見込みです。これにより売上総利益が減少する見込みですが、第2四半期迄の業績状況等を踏まえ、営業利益、経常利益については2023年3月30日に公表しました業績予想からの変更はありません。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、京都工場の移転に関連する津工場の再整備費用等が増加すること等により減少する見込みであります。

(注)上記記載の業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績等は様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以上